

ワークショップの進め方

(風景街道 × 大学)

本ワークショップは、大学生を主な議論主体としつつ、必要に応じて民間企業、地域おこし協力隊等の参加・助言を得ながら、実装可能性の高い提案へとブラッシュアップすることを想定しています。

目的

目的 ～なぜ、風景街道×大学か？～

大学生ワークショップの目的は、次の世代の生活感覚・価値観から、

「これから10年の日本風景街道が、若い世代にとって“関わりたい・使いたい・誇りたい仕組み”になるための具体像を描くこと」にある。

具体的には以下の4点の役割を期待

1. 次世代の参加者・担い手を引きつける魅力の可視化
2. 発信・体験・ストーリーの再設計（若者の日常メディア感覚）
3. 将来の仕事・学び・暮らしにつながる風景街道像の提示
4. 大人の会議では出にくい前提破壊・率直な疑問の提示



大学生の意見は「参考アイデア」ではなく、「次世代当事者からの提案」として整理

各テーマから ✓ 若者に刺さるポイント

✓ 今の制度・運営の課題

✓ すぐ試せそうな実装案

を抜き出し、会議の議論材料にする

テーマ・検討事項(案)

- 前提条件
- ・ 想定ルート：自分たちが暮らす／訪れたことのある具体的な日本風景街道
 - ・ 立場設定：「観光客」、「地域に関わる若者」、「将来その地域で働くかもしれない自分」

テーマ・検討事項（案）

テーマ① 若い世代にとって、日本風景街道は「何が面白くない／面白くなり得るか」

- ・ 正直に聞いてみよう
初めて知ったとき、名前や仕組みは分かりやすい？行ってみたいと思える？思えない理由は？
- ・ 他と何が違えば「選ばれる」存在になるか
道の駅、観光地、フェス、SNS映えスポットとの違い
- ・ 「なくなったら困る」と思える存在になるには何が必要か

テーマ② 風景街道を「体験できる場所・拠点」にするとしたら何ができるか

- ・ もし簡易パーキングや小さな拠点があったら
そこでは「何が分かる・感じられる」と面白いのか
- ・ 風景・自然・歴史をどう伝えるか
看板？動画？音声？AR？人？、「へえ！」と思った体験の具体例
- ・ 海外・他分野（博物館、展示、ゲーム等）の真似したい要素

テーマ・検討事項(案)

テーマ③ 若い人が関わり続けたいくなる「参加のしかけ」とは

- ・ ボランティア以外の関わり方があるとしたら？
お金／学び／スキル／実績のどれがあれば続けられる？
- ・ 学生・社会人になっても関われる形
インターン、副業、地域プロジェクト、研究、起業など
- ・ 関わった証が「将来にどう役立つと嬉しいか」

テーマ④ 風景街道を「仕事・産業」にするとしたら何が考えられるか

- ・ 観光以外に収入につながりそうなことは？
食、デザイン、教育、モビリティ、環境、イベント、商品
- ・ 誰が主役になると成り立ちそうか
若者、企業、交通事業者、地域団体、大学
- ・ 「自分がやるならこれ」という案

テーマ⑤ 若者から見た「未来の日本風景街道」の姿

- ・ 10年後、どうなっていたら誇れるか
- ・ 大人・行政に伝えたい一言
- ・ 有識者会議で議論してほしいこと

ワークショップの進め方

大学の選定

6月上旬 参加大学の公募（本省プレス）



公募期間：6月上旬～6月下旬

6月下旬 参加大学の選定（2～3大学）



ワークショップ準備

- ・国交省と大学側で進め方の調整
- ・地域の民間企業、
地域おこし協力隊等の参加調整

夏～秋 ワークショップ開催

ワークショップの流れ

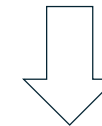
1. 風景街道の概要説明（国交省）

2. 現地視察（※必要に応じて）

3. ワークショップ

- ・ファシリテーターは国交省から派遣
- ・地域の民間企業、地域おこし協力隊等の参加も想定

※その他ロジ面の詳細については大学側と個別に調整



参加大学生の中からユース委員を選定

⇒ 共創会議での報告・議論参加を予定